

和歌山病院での実習を終えて



糸川 恵梨

今回、呼吸器内科のポリクリの一環として和歌山病院で二日間実習させていただくことになりました。すでに和歌山病院で実習を終えた班の人たちからすごく有意義で楽しかったという感想をたくさん聞いていたので、ポリクリの中でもすごく楽しみにしていた実習の一つでした。

たった二日間の実習でしたが、得たものはすごく大きかったです。まず、初めてN95マスクを着けてみて、サージカルマスクとの違いを体感できたことです。病棟へ行き、どういった工夫がされているかを知ること、結核について感染様式から、患者とどのように接するのかなど、印象強く学ぶことが出来ました。また、酸素療法のセミナーでは、班員それぞれが実際に鼻カニューラや酸素マスクなどを体験させていただきました。まずそういったものを装着すること自体あまり心地の良いものではないことと、酸素流量を上げすぎると鼻がつーんと痛くなるような不快感と苦痛が生じることを体感できました。頭では理解できていたとしても、実際に体験して初めてわかることも多く、今回のように患者に生じる得る不快感や苦痛を少し体験できたことは、今後患者の気持ちに寄り添った医療を提供できるようにするうえで貴重な体験になったと思います。

胸部レントゲンのセミナーでは、レントゲンに対する印象が大きく変化しました。まずそもそもレントゲン自体どのような仕組みのものなのかをじっくり考え、しっかり正常見方を理解することができました。今までは、レントゲン読影が苦手だったのもあり、知らず知らずのうちに教科書を見て、異常な部分しか捉えられていませんでした。その結果、実際に臨床実習でレントゲンを見た時にお手上げ状態になっていたのですが、このセミナーのおかげで、胸部レントゲンではどういうことをポイントに見るといいのかがすごくよくわかりました。

どのセミナーにも共通していたと思うのですが、普段なら「そんなものか」とそれ以上考えたことがなかったことに対して、先生方に「どうしてそうなるのか」と問題提起していただくことで、深く掘り下げて、自分の頭でよく考えることができた二日間でした。ある問題に対して、深くよく考えるくせをつけることはこれから働く上で大切でしょうし、何より今、学生のうちにそのくせをつけることで一つ一つその事柄に対してよく理解した方が、印象深く自分の中に残るという普段忘れがちなことをあらためて実感した実習でした。最後になりましたが、大変お忙しいにも関わらず、私たちにとっても貴重な機会を与えてくださった南方病院長、駿田副院長をはじめ、ご協力いただいた全てのスタッフの方に感謝申し上げます。ありがとうございました。